

農業総合研究センター かわら版

第49号 平成21年5月1日 発行
山形県農業総合研究センター 研究企画部
〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27
電話：023-647-3510

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

年度始めにあたって ～山形県農業総合研究センター所長 駒林 和夫

山形県農業総合研究センターかわら版を日頃からご愛読いただき感謝申し上げます。当センターでは、近年その重要性が増している地球温暖化、環境保全、自給率向上などを含めた農政課題解決に向け、農業に役立つ実用的な研究に取り組んでおります。

また、今年2月に名称が決定しました水稻新品種「つや姫」に関しては、来年の本格的な生産に向けて、重点的に取り組む計画です。

このような中、平成21年度から当センター各試験場の名称が改められ、「農業生産技術試験場」が「園芸試験場」に、「庄内支場」が「水田農業試験場」に、「養豚支場」が「養豚試験場」にそれぞれ改称されました。

今後ともこのかわら版を通じて研究成果を含む様々な農業情報を広く提供してまいりますので、皆様のご支援を心からお願いいたします。

平成21年度組織体制

農業総合研究センター

総務課	農業研究センター（みのりが丘）の庶務、経理等
研究企画部	産学官連携等共同研究の推進、重点プロジェクト研究の推進 農業関係試験研究に関する研究課題・事業調整 研究成果の普及広報、知的所有権の管理調整
作物資源開発部	水稻・畑作物生産技術の開発 原々種等種子生産業務
食の安全環境部	重金属等汚染土壌対策技術の開発 土壌残留性農薬吸収抑制技術の開発 環境保全型農業技術の開発、病害虫防除技術の開発 土壌肥料に関する研究
農産加工開発部	農産物加工技術の開発、農林水産物加工指導
園芸試験場	
総務課	園芸試験場の庶務、経理等
バイオ育種科	園芸作物の品種開発、バイオテクノロジー等高度先端技術の開発
果樹研究科	果樹生産技術の開発
野菜花き研究科	野菜・花き生産技術の開発
園芸環境研究科	園芸作物病害虫防除技術の開発、土壌肥料に関する研究
水田農業試験場	
総務課	水田農業試験場の庶務、経理等
水稻研究科	水稻新品種の開発、水稻生産技術の開発
畜産試験場	
総務課（兼務）	畜産試験場の庶務、経理等
家畜改良科	先端技術を活用した優良家畜の開発
飼養管理科	家畜飼養管理技術及び施設高度管理技術の開発
草地環境科	飼料生産技術及び環境負荷軽減技術の開発
養豚試験場	
総務担当（兼務）	養豚試験場の庶務、経理等
養豚研究担当	豚飼養管理技術の開発

養豚関係者へ飼料米の給与効果を発表

(養豚試験場)

社団法人山形県畜産協会、山形県養豚協会等の共催による養豚研修会が3月5日に鶴岡市湯野浜を会場に開催され、養豚農家および関係者約100名が参加しました。

当試験場からは、平成20年度に実施した「肥育豚への飼料用米の給与効果」について研究成果を発表しました。発表内容は、飼料米を0%、15%、30%、45%の配合割合で与えた場合の発育性、枝肉成績、肉質、食味に及ぼす影響を調査したところ、飼料米給与により豚肉の食味が向上しました。中でも、配合割合は15%が最も食味が良いこと、脂肪中のオレイン酸含量が増加すること、発育性や枝肉成績は変わらないことなどが明らかとなりました。

今、話題となっている飼料米の試験成績に熱心に耳を傾けていただきました。



研修会の様子

おうとう雨除けテント早期被覆試験開始

(園芸試験場)

4月7日、園芸試験場のおうとう雨よけテントを一部被覆しました。これは、平成18年度から実施している課題「低樹高・新型雨除け施設によるオウトウの軽労安定生産技術の開発」の試験の一環として、早期被覆したものです。

雨除けテントは本来、収穫の約1ヶ月前に被覆を行い、降雨による果実の裂果を防止する施設なのですが、この試験は、開花期の受粉環境の安定と、効率的な防霜効果を得るために、開花前から雨除けテントの被覆を行うもので、早期に被覆した際の施設内の温度経過や、樹体への影響、さらに省力・低コスト防霜対策について調査するものです。

また、通常より低い雨除け施設を利用することから、被覆直下となる樹上部の開花期や果実品質に対する高温の影響も併せて調査することにしています。

本来であれば、霜は降りてほしくはないのですが、降霜がないと試験にならないのが悩みの種です。



4月7日に早期被覆した雨除けテント